

Title	「地域に生き世界に伸びる」：連携の多様性
Author(s)	安田, 誠; 荒平, 智子
Citation	年次学術大会講演要旨集, 40: 252-253
Issue Date	2025-11-08
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="https://hdl.handle.net/10119/20123">https://hdl.handle.net/10119/20123</a>
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

## 1 C 2 2

### 「地域に生き世界に伸びる」～連携の多様性～

○安田 誠，荒平智子（大阪大学大学院工学研究科社会連携室）

#### 1. はじめに

大阪大学は「地域に生き世界に伸びる」を基本理念に掲げ、優れた人材の育成と先端的な学術成果の創出を通じて、地域と世界に貢献してきた。その源流には、大坂の庶民が創設した「懷徳堂」や、日本各地から志ある若者が集い蘭学を学んだ「適塾」に育まれた市民精神がある。この精神は、大学と社会の垣根を越えて地域と共に歩み、実学の精神で時代の課題に挑み続ける姿勢として受け継がれている。

本発表では、連携多様化の最新動向を報告するとともに、本学の「実学重視」の源流を振り返り、その強みを活かした今後の連携のあり方を考える機会としたい。

#### 2. 工学研究科の沿革

工学研究科の歴史は 1896 年大阪市北区玉江町に大阪工業学校が創設されたことに始まる。当時、大阪は商業はもちろん、紡績・造船等の工業においても急速な発展を遂げており、官民一体となって工業学校の設立に取り組んだ。以来、地域社会や地場産業とともに発展し、2026 年には創立 130 周年を迎える。このように大学だけでなく、工学研究科も同様に、中央政府の計画に基づいて創立されたものでなく、産業界からの強い要望によって誕生した歴史を持つ。そのため、創設時の実学的伝統を今も受け継ぎ、発展させている。



図1 大阪工業学校（正面が本館）



図2 大阪高等工業学校校門



図3 大阪帝国大学工学部正門

#### 3. 連携の多様性

大学の共同研究は、単なる学術深化にとどまらず、社会に新たな価値をもたらす力を持ち、個別では困難な課題も、異なる分野・立場の協働により視点が交差し、技術や知識の融合から新たな展開が生まれる。工学研究科は、地域や企業に加え行政機関とも連携し、「産・学・官」連携の多元的な体制を構築。近年では一対一の協力を超え、「産 s・学・官 s」といった複数主体によるネットワーク型の共同研究や共創プロジェクトを推進し、より持続的で戦略的な協力関係を育んでいる。

##### 事例「業界クラスター型」

国際競争力強化に向け、業界全体をリードする研究・教育拠点としての役割を「共同研究講座」を基盤にして推進：「阪大 OCEANS」<sup>1)</sup>

事例「効率的、効果的なインフラ運営」（企業・阪大・地方自治体／国土交通省「インフラ群マネ」）：

「さいたま市、インフロニアホールディングス、大阪大学大学院工学研究科 包括連携協定」<sup>2)</sup>

事例「海洋プラスチックごみ対策」（企業・阪大・地方自治体／大阪府「おおさか海ごみゼロプラン」）：

「“海ごみゼロおおさか” 未来創造プロジェクト」に関する事業連携協定」<sup>3)</sup>

事例「老朽インフラの維持管理」（企業・企業・阪大・地方自治体／大阪泉州地域12自治体）：  
「ドラレコ・ロードマネージャーを活用した維持管理の研究に関する協定」<sup>4)</sup>



図4 「“海ごみゼロおおさか”未来創造プロジェクト」



図5 「ドラレコ・ロードマネージャーを活用した維持管理の研究に関する協定」

#### 4. まとめ （産・学・官の連携で「地域に生き世界に伸びる」）

大阪大学大学院工学研究科は、9専攻および4附属教育研究施設を擁し、170を超える研究室が集積する国内有数の規模を誇る。この多様な研究基盤により、現代社会のあらゆる分野に対応できる体制を整え、企業との連携のみならず、中央省庁や地方自治体等の行政機関、国立研究機関、さらには業界全体との多面的な連携を可能としている。

社会課題が広域、複雑になるほど関係者は増え、多様な連携が求められる。より持続的、戦略的に多種多様なパートナーと共創する「産・学・官」の多面的連携は、地域や産業の課題解決から国際貢献、国際競争力、国際標準化等へと発展する。

地域と共に歩む活動の核となり、地球規模での課題解決に貢献することは、大学に求められる大きな役割のひとつである。

#### 参考文献

- 1) 国立大学法人大阪大学，今治造船株式会社，ジャパンマリンユナイテッド株式会社，日本シッパード株式会社 一般財団法人日本海事協会，株式会社MTI，日本海事産業の国際競争力の向上へ！大阪大学大学院工学研究科に「先進海事システムデザイン共同研究講座」を2025年4月に設置，大阪大学プレスリリース，2025年3月6日  
[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/press\\_release/6e1h2u/6xnczg/20250306\\_01](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/press_release/6e1h2u/6xnczg/20250306_01)
- 2) インフロニア・ホールディングス株式会社，さいたま市，大阪大学大学院工学研究科と包括連携協定を締結，インフロニア・ホールディングスプレスリリース，2024年11月25日  
<https://www.infroneer.com/jp/news-article/2024/11/25/931.html>
- 3) 大阪大学大学院工学研究科、大阪府、古野電気株式会社，「“海ごみゼロおおさか”未来創造プロジェクト」に関する事業連携協定を締結します，大阪大学プレスリリース，2025年2月10日  
[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/press\\_release/6e1h2u/il20hu/20250210\\_02](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public-relations/press_release/6e1h2u/il20hu/20250210_02)
- 4) 貝塚市，ドラレコ・ロードマネージャーを活用した維持管理の研究に関する協定締結式の開催について ～地域インフラ群再生戦略マネジメントにおける道路分野におけるモデル事業～，貝塚市プレスリリース，2025年3月11日  
<https://www.city.kaizuka.lg.jp/material/files/group/80/dorareko.pdf>